

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	石原 里美
Incidence and Clinical Significance of 30-day and 90-day Rehospitalization for Heart Failure among Patients with Acute Decompensated Heart Failure in Japan: From the NARA-HF Study (和 訳) 日本における非代償性急性心不全患者の30日および90日以内の心不全再入院の発生率と臨床的意義:NARA-HF研究より			

### 論文内容の要旨

#### 【背景】

心不全治療の発展にも関わらず，早期心不全再入院は依然として多く，重大な問題である．そこで，その発生率や臨床的意義，予測因子について検討した．

#### 【方法と結果】

NARA-HF 研究に登録された(急性非代償性心不全のため 2007 年 1 月から 2016 年 12 月までに当院に入院した患者)1074 例のうち，追跡データのない例や院内死亡例を除いた心不全初回入院患者 783 例を対象とした．平均追跡期間は 895 日で，241 例が心不全再入院した．心不全再入院は退院後 30 日以内が最も多く(26 例[3.3%])，90 日まで多い状態が続き(63 例[8.0%])，その後急激に減少した．90 日以内の早期心不全再入院がある群では，ない群に比べて全死亡，心血管死ともに多く，年齢や性別，腎機能などの各因子で調整した後でも有意であった(全死亡 ハザード比[HR] 2.321，95%信頼区間[CI] 1.654-3.174;  $P < 0.001$ ，心血管死 HR 3.396，95%CI 2.153-5.145;  $P < 0.001$ )．早期心不全再入院の独立した予測因子は性別(男性)のみであった．

#### 【考察】

日本における早期心不全再入院を検証した本研究では，退院後 90 日以内の早期心不全再入院が多かったが，これまで報告されている欧米における早期心不全再入院率より低い結果であった．過去の研究から，入院期間が短いことと早期心不全再入院の間に関連があることが示されており，本研究における平均入院期間(19 日)は，欧米で行われた過去の研究における平均入院期間(8 日)に比べて長かったことから，本研究での早期心不全再入院の割合が低いのは入院期間が長いためである可能性がある．しかし，入院期間が長いことも早期心不全再入院と関連があるという報告もあり，入院期間以外の要因を考慮する必要がある．90 日以内の早期心不全再入院する患者の予後は不良であり，そのリスクを特定することが重要である．本研究では，これまでに報告されている心不全に関連する因子は早期心不全再入院には関与せず，唯一，男性であることが早期心不全再入院の予測因子であった．本研究からは，その正確な理由は解明されなかったが，通常，高齢の日本人男性は，女性と比較して自己管理が不十分であり，そのことが影響している可能性があると考えられる．

#### 【結論】

早期心不全再入院の予測因子は心不全の臨床的要因とは関係がなく，早期心不全再入院を防ぐためには新しい包括的な方法が必要と考えられる．